

JICA 留学生 70 名が「神戸」を学ぶ

阪神・淡路大震災の復興から現在の姿まで

国際協力機構（JICA）関西センター（以下、JICA 関西）は、3月15日（水）から17日（金）の3日間、関西地域の大学院で学ぶ開発途上国からの留学生（以下、JICA 留学生）70人を対象に、「神戸」を学ぶ合宿セミナーを開催します。

関西地域の JICA 留学生が JICA 関西に一堂に会するのは 2019 年 3 月以来 4 年ぶり。コロナ流行後は叶わなかった大学を越えた JICA 留学生の交流に加え、今回の合宿セミナーでは、阪神・淡路大震災からの復興と現在の神戸を学ぶことも目的としています。

特に、1 日目（3 月 15 日（水））の午後は、吉本興業株式会社所属の芸人、フランポネと Ko から漫才のつくり方を学びます。2 日目（3 月 16 日（木））の午後には、兵庫県の復興を兵庫県防災監及び副知事として牽引した齋藤富雄 関西国際大学特命教授を講師としてお迎えし、途上国の未来のリーダーとなる JICA 留学生に対して、「阪神・淡路大震災の「創造的復興」過程での教訓、未曾有の災害に直面した時にリーダーとして何を考え行動すべきかなどを、兵庫県の復興の陣頭指揮を執ったお立場から語っていただくこととしています。

各プログラムと概要は次のとおりとなります。

時間	プログラム	ねらい
3月15日水曜日<1日目> *会場：JICA 関西 2階 ブリーフィングルーム		
13:50	JICA 関西 木村所長挨拶	
14:00-17:00	日本語講座「漫才で覚える日本語」 講師： フランポネ（マヌー、シラちゃん）： 吉本興業株式会社所属芸人 Ko：吉本興業株式会社所属芸人	日本語や英語で漫才を作成するプロセスを通じて、JICA 留学生間のコミュニケーションを促進することがねらいとなります。 当日の流れは以下のとおりとなります。 1) 講師による漫才のつくり方の説明 2) 長期研修員がコンビを組み、「日本に来て困ったこと、びっくりしたこと」等を話し合いながらネタ選び、漫才を作り上げる。 3) 漫才の発表（16時頃から）。 ご参考： https://www3.nhk.or.jp/kansai-news/20220917/2000066398.html

3月16日水曜日 <2日目> *会場：午前：人と防災未来センター/ 午後：JICA 関西2階 ブリーフィングルーム

地域理解プログラム「阪神・淡路大震災からの復興」

【目的】震災後、兵庫県がより強靱な災害に強い住みやすい街づくりを推進し復興を遂げてきた歴史と世界に伝える取り組みについて理解すること

10:30-12:30	人と防災未来センター見学	阪神・淡路大震災とはどういう災害であったかを体感する。
13:30-16:30	<p>講義「震災からの「創造的復興」</p> <p>講師： 関西国際大学 齋藤富雄特命教授 (元兵庫県防災監、副知事)</p> <p>*言語：日本語（英語の逐次通訳） *オンライン配信あり</p>	<p>兵庫県の防災・復興の担当のトップリーダーの視点から、阪神・淡路大震災からの経験と教訓を学ぶ。</p> <p>当日の流れは、以下のとおりとなります。</p> <p>1) 齋藤先生からの講義（1時間半程度） 2) 質疑応答（1時間程度）</p>

3月17日金曜日<3日目>

午前中	JICA 内プログラム	
13:30-17:00頃	<p>視察「神戸の街を知る」</p> <p>コース1：山コース（神戸市立博物館→六甲山ケーブルカー→六甲山掬星台→展望台） コース2：海コース（神戸海洋博物館→神戸港クルーズ（御座船安宅丸））</p>	1995年の阪神・淡路大震災から28年を経過した神戸を、海側及び山側から視察を行い、現状を理解する。

* JICA 留学生： 開発途上国から JICA の人材育成プログラムで来日し、日本の大学（修士課程あるいは博士課程）で学んでいる留学生。JICA 留学生は、自国の行政官、研究者、民間企業出身者などバックグラウンドは様々ですが、将来、国の発展を支えるリーダーとなることが期待されている人材です。自身の専門の研究とともに、日本の近代化の歴史を学ぶことで、日本と途上国をつなぐ架け橋となることも期待されています。

現在、アジア、アフリカ、中南米など出身の約 270 名の JICA 留学生が、関西地域の 13 の大学の大学院で学んでいます。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 関西 開発大学院連携課 鍛治澤、松野

TEL 078-261-0341

e-mail : Kajisawa.Chieko@jica.go.jp、Matsuno.Junko@jica.go.jp